

間投詞 *zut* の意味用法—オノマトペから意志、そして評価へ—

山本大地(福岡大学)

本発表では、悪態語の一つであり、*merde* の婉曲語ともされる、フランス語の間投詞 *zut* を取り上げ、その意味価値、統語的振る舞い、そして語源的な価値等に注目する。

まず、間投詞というカテゴリー全体を見渡すため、Tesnière (1959)、Ameka (1992)、Wierzbicka (1992)、Soriano (1999)、Anscombe (2009) が提案する間投詞の意味・機能的な分類を概観する。

続いて用例観察を行い、不意に生じた事態に対する悔しさや失望を表出する用法(「評価」と、文脈で問題となっている事柄や対話者に対して拒否の意志を示す用法(「意志」という、二つの用法に大別できることを確認する。なお本発表が依拠するデータは、フランス語書き言葉コーパス *Frantext* を用いて収集した約 500 の用例である。さらに、この二用法は共起する副詞句、前置詞句、接続詞句が異なること、そして交換可能な悪態語も異なることを提示する。

続いて *zut* の語源的な価値を探る。その起源はオノマトペであると考えられること、その価値はとりわけ意志用法と関わりが深いこと、そして評価用法は意志用法よりも後から発生したことを示す。つまり、オノマトペから意志、そして評価へという意味の変遷をたどることができる。

最後に、その意味の変遷を理論的に捉えることを試みる。類似の変遷をたどったと考えられる、いくつかの間投詞に関する分析を参考にする一方で、「意志」と「評価」の関係についてはモダリティの観点も取り入れてみたい。

< 上記参考文献 >

Ameka, F. (1992), “Interjections: The universal yet neglected part of speech”, *Journal of pragmatics*, 18, 101-118.

Anscombe, J.-C. (2009), “Notes pour une théorie sémantique des jurons, insultes et autres exclamatives”, D.Lagorgette (ed), *Les insultes en français: de la recherche fondamentale à ses implications (linguistique, littérature, histoire, droit)*, Presses de l’Université de Savoie, 9-30.

Sierra Soriano, A. (1999), “L’interjection dans la BD : réflexions sur sa traduction”, *Meta*, 44-4, 582–603.

Tesnière, L. (1959), *Éléments de syntaxe structurale*, Paris, Klincksieck.

Wierzbicka, A. (1992), “The Semantics of Interjection”, *Journal of Pragmatics*, 18, 159-192.